

鉄道ピクトリアル

2014年5月号 Vol.64 No.5 通巻No.889

<特集> 車両の客室(通勤車)

■表紙 通勤電車の車内今昔……………編集部

(左)秩父鉄道1000系 2013-1-21/(右)JR東日本E233系6000番代 2014-2-12

■グラフ

通勤をもっと快適に(1~8ページ)

井上英樹・富村哲男・澤木良直・河原慶明・浜村正弘
……………白土洋次・山口 徹・池田嘉孝・岩永伸一・杉崎健一
烧田 健・山口大助・森田 宏・岡本文彦・山中 茂

*

初期高性能通勤電車とその車内……………構成:編集部… 33

京阪電車ならではの客室設備10選……………清水 祥史… 42

新鋭通勤車 客室カタログ……………解説:高瀬智嗣… 46

*

Pictorial Color Gallery 峠にモーター響かせて……………佐野 嘉春… 81

JR東日本「SL銀河」編成/JR四国8600系特急形電車/JR四
国キハ32 3「鉄道ホビートレイン」/JR東日本E233系6000
番代/JR西日本キヤ143形/阪堺電気軌道1002号「紫おん」
京阪電車のミュージアムゾーン「SANZEN-HIROBA」オー
ブンほか

84~89
98~100

トピック・フォト(各地・関東・中部・関西)……………90

阪急電鉄ニュース……………写真:成瀬伸夫ほか…101

ミャンマーの日本型気動車2014……………斎藤 幹雄…102

各地のニュースから……………白川 淳…104

■本文

今月の話題:車両の客室(通勤車)……………編集部… 9

通勤電車の客室雑感—ドアと定員の話を中心に……………岩成 政和… 10

東京大学生産技術研究所 須田義大教授に伺う

通勤車両の客室 現在と進化の方向……………構成:岸上明彦… 20

時代とともに変わりゆく 電車の袖板の興味……………生方 良雄… 26

————— 通勤車客室の設備・各論 ——— 大都市圏の通勤車を見る —————

石本 祐吉(49~69ページ)

ドア……………49/窓……………52/貫通路……………55/吊手・掴み棒……………56

座席……………58/冷暖房設備……………60/照明……………62

放送・案内装置……………63/床……………64/車内景観……………65

前面の展望……………67

*

鉄道の話題……………編集部… 32

ミャンマーの日本型気動車2014……………斎藤 幹雄… 70

工学院大学オープンカレッジ鉄道講座のご案内……………阿部 等… 80

書評(599)『みまさか鉄道ものがたり』……………和久田康雄…105

JR貨物EH800形901機……………杉山 義一…106

JR東日本E233系6000番代……………山田 孝夫…111

絵葉書が描く地方私鉄の昔むかし(5) 南総鉄道……………白土 貞夫…116

2月のメモ帳……………118

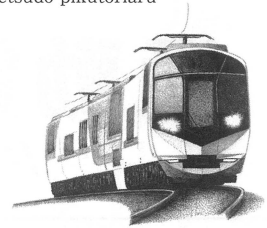
読者短信・情報ファイル……………119

後部車から……………123

ISSN0040-4047

Tetsudō pikutoriaru

今月の話題



カット:山本茂樹

車両の客室(通勤車)

鉄道車両のうち旅客車を構成する内容の中で、客室は欠かすことのできない重要な要素である。さまざまな設備とその配置は、乗客の快適性、利便性などの向上をめざして古来ためまぬ改良を重ねて今日に至っている。動力装置や制御・制動など走行性能をまとめる機器類と異なり、客室の全体仕様は大小の多彩な設備・小物を融合させて機能を発揮するとともに、乗客が直接的に触れる空間としてそれぞれのデザイン、使い勝手は車両の評価にも多大な影響を及ぼす。一口に客室といっても、特急などの優等列車、寝台車、観光輸送、そして通勤輸送など用途によりその構成は大きく異なる。快適なリクライニングシート、化粧室などを有し居住性を重視した優等車は外観とともに社会的にも注目を集めるが、本号では日常的に多くの利用者が接する通勤車両の客室を概観してみることにした。

通勤車両の客室は、前述のような優等車の華やかさは求められない。そのかわりデザインや快適性を維持しつつ、混雑する通勤輸送の定員確保、乗降性能などの機能面が基本的に重視される。一般的にはロングシートが主流で、床面を広く確保して立ち席を設けている。ドア、窓、座席、貫通路、吊手、ポール・手すり、空調、照明、床、放送装置、そして近年は案内表示装置など、あらゆる設備・小物には社会背景、輸送事情に基づいた改良の歴史があり、意匠の成り立ちはまことに興味深いものがある。目新しい設計の新形車の客室はもとより、増備車の設計変更、在来車においても修繕などで改良が加えられることが少なくない。こうした小さな変化を繰り返す通勤車の客室個々の設備、その全体像の変貌過程の理解は鉄道趣味・研究における醍醐味とも言えるものである。

TETSUDŌTOSHO KANKŌKAI
Mehrlicht Ochanomizu Bldg., Kanda
Ogawamachi 3-8 Chiyodaku, Tokyo/Japan